

夜に咲く花

— ネムノキの話 —

夏はネムノキの花の季節です。傘を開いたような樹冠の上に、ピンツの花が上を向いていくつも咲きます。花は細長い糸状のものがたくさん集まっていて、ふさふさとしています。その形が夜店の水中花のようで、涼しさを感じさせます。

夏に葉が茂り、冬に落葉する大きくなる木です。本州、四国、九州に広く分布し、富山県では、常願寺川、神通川、庄川などの川原や、用水路のふち、あるいは低山の開けたところに生えています。また、県庁前の街路樹にもなっています。

花の細長い糸状のものは、一見、花びらのように見えますが、実はおしべなのです。もちろんめしべもあります。これが集まって一つの小さな花をつくり、さらに、小さな花が10から20個集まって、ふさふさとしているのです。花びらは短くて目立ちません。

一枚の葉は、鳥の羽のような葉が集まってできています。よく見ると、さらに小さな葉が対をなしています。夜になると、これらが互いに閉じて、あたかも眠ったように見えます。ネムノキの名前は、ここからつきました。

わが国では、ネムノキの葉に、眠気

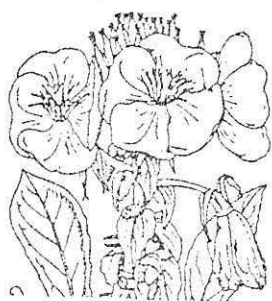


ネムノキに蜜を吸いに来たベニスマ

をさそつ睡魔が宿ると考え、これを追い払って健康を祈願するならわしがあります。長野県のネンブリ流しや、青森県のネブタ流しは、その代表的なものです。滑川市にもネブタ流しの行幸があります。ネンブリやネブタはネムノキの方言です。富山県でもネンブリと呼ぶところがあります。

ところで、ネムノキの花は、葉が眠る夕ちから咲き始めます。日中、見ている花は、実はしぼんだ花なのです。夕ち、夕涼みをかねて、ネムノキの花を見に行くのも、夏の楽しみの一つです。懐中電灯の明かりに照らされた花はとても美しいものです。細い糸のようなたくさんのおしべが、四方にピーンとはって、生き生きと咲いています。夜に、花が咲いたのでは、受粉を仲立ちする昆虫がくるのかと気にかかりますが、そこが自然界の素晴らしいところです。夜、活動するガの仲間のベニスズメなどが、羽音も高く花から花へと、あわただしく飛び交っています。

夜咲く花には、このほかにオオマツヨイグサ、メマツヨイグサなどがあります。オオマツヨイグサは数が少ないけれども、メマツヨイグサは、肋浜や川原にたくさん生えています。これらの花も、夕ちから威勢よく咲きだします。これにもガの仲間が、蜜を吸いにきます。(S N)



オオマツヨイグサの花
(牧野植物図鑑による)



富山市科学文化センター

富山市西中野町3丁目1番19号 (〒939)

電話 富山 (0764) 91-2123(代表)